

平成30年度MieMuの活動と運営の各戦略・戦術

計画期間(3年):2017(平成29)年度~2019(令和元)年度

三重県総合博物館(MieMu)が、長期にめざす姿(ビジョン)の実現に向けて、当面3年間(=計画期間)に戦略的に取り組むための計画とそのマネジメントのしくみを、以下のとおりとしています。

ビジョン

三重は、日本列島のほぼ中央に位置し、南北に長く水深2,000mの深海から標高1,700m近くの山岳までも含んだ多様な自然環境をもち、亜寒帯から亜熱帯までの幅広い生物種を育む日本列島の縮図のような自然を有している。この自然を背景に、伊勢・伊賀・志摩国と紀伊国の一部から成り立つ三重は、それぞれの地域で特色あるくらしや歴史が育まれてきた。また、三重は古くから陸海の交通の要衝にあり、都に近く、信仰と商業の拠点性を有したことから、人・モノ・情報が集まり交流が生まれることで、東西文化の結節点となり、多様な文化を生みだしてきた。三重県総合博物館は、このような三重の多様で豊かな自然と歴史・文化について、県民・利用者の皆さんとともに総合力を発揮して探究し、保全・継承し、広くその意義を伝える。このことにより、三重の特徴と素晴らしさに気づき、多様な価値観のもとで、誇りをもって地域をより良くしようとする人々が集う活気ある社会の形成を目指す。

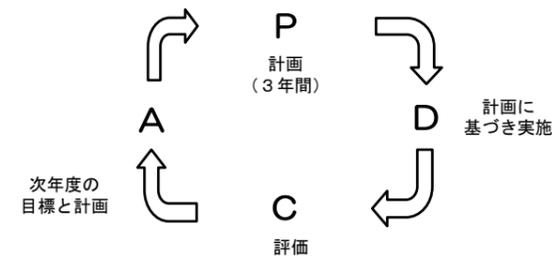
| 戦略目標 | 達成度 | 戦略を評価するための指標 | | 評価結果 | | 戦術 | 達成度 | 戦術を評価するための指標 | | 評価結果 | | | | | |
|--|-------------|---|---|---|---|------------------------------------|---|---|--|---|---|---|--|--|---|
| | | アウトカム(成果) | | 各戦略の内部評価概要 | 外部評価 | | | アウトプット(結果) | アウトカム(成果) ※アウトカム指標を削除し、アウトプットのみで評価したい | 内部評価 | 外部評価 (※館からの提案を受けて、協議の結果、結果のみで評価することになった) | | | | |
| 1 何度も利用していただくために、展示(基本展示・展覧会)を充実させます(展示) | 4 ↓ 3 | リピーターの割合 目標値:50→60% 実績値:71% | | ・目標を達成したので4とした。 ・71%の再来館(観覧)者割合を達成した。 ・企画展のリピーターが80%近くあるのに対して、基本展示は56%であるが、満足度は92%と高く、基本展示の内容に大きな問題はないと思われる。展示の魅力を発信する取組の強化が必要で、不調の映像機器に関する修理等が望まれる。 | ・目標を企画展は達成しているが、基本展示は達成していないので3と評価した。 ・リピーターの数は、特に企画展示(76%)でかなり高い割合を得ており、「何ども利用してもらおう」という戦略目標は、企画展示では達成できたと判断できるが、基本展示における値(56%)は、むしろ、新規来館者が期待できることを示している。 | 1 何ども利用していただくため、多様なテーマによる展覧会を開催します | 2 | 展覧会の観覧者数 目標値:70,000人 実績値:63,013人 | 展覧会のリピーターの割合 目標値:50→60% 実績値:76% | | ・結果の目標の8割を達成したので2とした。 ・高・大学生の展示企画参加など、コラボ事業を推進することなどにより、低迷する年齢層へのアプローチと利用者の拡大を図る必要がある。 ・目標の9割で、目標を達成していないので2と評価した。 ・原因を分析し、対策を早急に講じる必要がある。 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 2 基本展示を何ども利用していただくために、展示の更新や解説などを実施します | 2 基本展示の観覧者数 目標値:70,000人 実績値:63,568人 | 2 基本展示のリピーターの割合 目標値:50% 実績値:56% | ・結果の目標の8割を達成したので2とした。 ・56%のリピーターを獲得できた。 ・クイズラリーのポイントを基本展示室内に設け観覧導入した。 ・不調映像機器の修理や定期的な展示替えが課題である。 |
| | | | | | | | | | | | | 3 親子連れで博物館を楽しんでもらえるように、こども体験展示室の利用を促進します | 2 利用者数 目標値:82,000人 実績値:65,175人 | 2 入館者におけるこども体験展示室利用者の割合 目標値:30% 実績値:32% | ・結果の目標の約8割でしたので2とした。 ・入館者の32%の方にご利用いただけた。 ・適正利用者数は1日200人と考えられ、混雑日には分散するよう親子向けコーナーを設置を継続していく。 |
| 2 博物館の存在を広く知っていただくために、積極的な広報を展開します(集客) | 4 | 一般のMieMuの知名度(県政eモニターのアンケートで実施) 目標値:75% 実績値:80% | ・eモニターの結果から、当館の知名度は目標値以上となっており、前年度と比較しても大きな減少は無かったので4とした。 ・おもちゃ展やくらしの道具展ではタイアップイベントも開催したことから、多面的なアプローチをすることができ、集客にもつながった。 ・伊賀地域については若干低い傾向にあるので、周知が求められる。 | ・目標を達成しており4と評価した。 ・地道な活動成果と評価できる。 | 4 メディアに報道してもらうため、メディア向け説明会や内覧会を行います | 4 | 説明会・内覧会に参加したメディア数(通年累計) 目標値:20社 実績値:26社 | 参加したメディアの報道回数 目標値:20回 実績値:27回 | | ・目標を達成したので4とした。 ・内覧会への参加は報道機関の都合があるため、後追い取材時等には担当学芸員等が見所などを詳しく解説する等、単なるイベント紹介ではなく、来館者の増加を見込めるような内容の記事を掲載してもらう工夫が必要になる。 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 5 博物館の活動を知っていただくために、ホームページ、ツイッター、フェイスブックなどを充実させます | 4 閲覧数(トップページ累計) 目標値:310,000→320,000回 実績値:347,035回 | 2 SNSでは、誘客を意識してイベントPRの要素が多くなった。誘客に繋がる発信も継続して行いつつ、展示準備の様子など、博物館活動全体の紹介にも努めたい。 | | |
| | | | | | | | | | | | 6 県内の子どもたちに知らってもらうために、教育委員会と連携した広報を行います(チラシ配布の他、連携事業を含む) | 2 連携事業への参加者数 ↓ 目標値:100→150人 4 実績値:775人 | 2 高校生以下の観覧者数 目標値:70,000人 実績値:61,205人 | ・結果の目標は達成したが、成果が8割達成したので2とした。 ・各児童への企画展チラシ配布のほか、様々な連携事業や研修等で連携できた。 ・学校利用数については、利用者数は前年度より増加したが、校園数は減少していることから、今後も注視して推移を見ていく必要がある。 | |
| 3 「ともに考え、活動し、成長する博物館」にするために、博物館の活動と経営への県民・利用者の参画を促進します(連携) | 2 | 参画者数(MP数・企業数・ボランティア数) 目標値:310名20社(H30) 実績値:294名41社・団体 | ・参画者数が目標の9割だったので、2とした。 ・多くの方や企業等に、当館の活動に関わっていただくことができた。 ・ミュージアムパートナーやボランティアについては、新規会員の獲得や活動内容の充実等が課題になっている。 | ・目標を企業数は達成しているが、参画者数は達成していないので2と評価した。 ・博物館活動への県民や利用者の参画について、毎年、企業等への積極的活動が成果を上げてきた反面、ミュージアムパートナーは目標に届かず、ボランティアについては、登録者だけでなく、活動回数も減少傾向にある。こうした傾向は平成29年度でも見受けられたことであり、改めて、取組の見直しが求められる。 | 7 博物館を活用した学びを深めるために、ミュージアムパートナーと協働します | 2 | 登録者数 目標値:280人(H30) 実績値:273人 | MP登録者のうち学びが深まったと感じた方の割合 目標値:60% 実績値:59% | | ・結果の目標の8割を達成したので2とした。 ・登録者数については、昨年度から大きな変化はないが、内訳は3月末で退会が20名ほど、年間を通じて新規会員が20名ほどとなり、退会者を少なくする対策が必要である。 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 8 活動への企業の参画促進のために、企業との協働による事業を実施します | 4 協働した企業数 目標値:20社 実績値:41社 | 2 協働した企業による協働に関する満足度 目標値:80% 実績値:100% | ・目標を達成したので4とした。 ・博物館で取り扱っている様々な具体例を集約し、企業の皆様に継続して納得していただけるメッセージを練り上げ、館長以外の職員も会合等で講演することができるようになる必要がある。 | |
| | | | | | | | | | | | 9 市民の参画を促進するために、ボランティア活動の活性化を図ります | 2 登録者数 ↓ 目標値:30人 1 実績値:21人 | 2 延べ活動回数 目標値:120回 実績値:92回 | ・結果の目標の7割だったので2とした。 ・登録者数の減少から作業日に人が少なく、参加者のモチベーションの低下につながった。12月より担当者の退職などの特殊事情もあり、登録者があるもの実際には活動に至らなかった。ボランティア活動分野と内容の再検討が必要である。 | |
| 4 博物館活動の基盤となる資料の劣化を防ぎ、将来活用できるようにするために、収蔵資料及び地域 | 2 | 地域の保存・保全方法の改善内容・効果 | ・定期的に収蔵庫の清掃・点検を実施した。 ・収蔵資料の文化財害虫の発生が1件あったが、定期清掃・点検により早期発見できた。 ・地域の文化財・自然環境等の保全について、昨年度より件数は減少したものの個人・団体・公的機関等から多くの相談を受けた。助言・指導等のシン | ・収蔵資料や地域の文化財等の保存・保全にあたっては、残念ながら一部で虫害が発生したが、早期に適切な処理ができた。 ・地域の文化財等を保全するため、各種の相談や指導に当たる活動に | 10 収蔵資料を保存・保全するために、収蔵庫および展示室の定期的な清掃・点検を行います | 2 | 収蔵庫の文化財害虫の捕獲数 目標値:0匹 ※件数に変更したい 実績値:100匹 | 2 ダメージを受けた資料点数 目標値:0点 実績値:2点 | ・目標を達成できなかったが、早期発見と適切に処理できたので2とした。 ・害虫の発生原因と考えられる、空調不具合の解消が必要である。 ・文化財害虫の発生・被害等の早期発見のため、モニタリングの強化と定期清掃・点検に努めるとともに、職員の知識・意識向上にも努めている。 | ・虫害が発生し、目標を達成できなかったが、早期発見と適切に処理できたので2と評価した。 | | | | | |

| 戦略目標 | 達成度 | 戦略を評価するための指標 | | 評価結果 | | 戦術 | 達成度 | 戦術を評価するための指標 | | 評価結果 | |
|--|-----|---|--|---|--|--|-------------|---|--|---|---|
| | | アウトカム(成果) | | 各戦略の内部評価概要 | 外部評価 | | | アウトプット(結果) | アウトカム(成果) ※アウトカム指標を削除し、アウトプットのみで評価したい | 内部評価 | 外部評価 (※館からの提案を受けて、協議の結果、結果のみで評価することになった) |
| の文化財等の保存・保全に注力します(資料の保全) | | (保存分野の学芸員によるレビュー) | | クタンク機能を果たすとともに、資料の寄贈・寄託により資料の保存につながったケース、職員が相談者とともに現地で保全活動を行うケースなど、職員の専門性を生かしながら、柔軟に対応し、地域の文化・保全に貢献することができた。 ・以上のことから3とした。 | については、目標の相談件数(60件)を超える対応(67件)ができた。また、適切な指導・助言を通じて資料の寄贈・寄託に繋げるなど、公立館としての役割を果たせた。 ・以上のことより、3と評価した。 | 11 地域の文化財等を保全するために、相談窓口を用意し、指導助言を行います | 4 | 指導助言件数 ※主に機関 目標値:60件 実績値:67件 | 指導助言に基づいて行動を行った件数 目標値:12件 実績値:46件 | ・目標を達成したので4とした。 ・保存担当者の退職に伴い、その分野の相談・指導・助言に一定期間対応できなかったが、新年度には保存担当職員を採用し体制を整えた。 | ・目標を達成しており4と評価した。 |
| 三重に関する資料や、博物館活動の学術的価値づけとその意義を伝えるために、総合博物館の強みを活かした研究に取り組みます(研究) | 3 | 協議会委員によるレビュー | | <ul style="list-style-type: none"> これまでの研究成果の公表は、過去に蓄積してきたデータを発表することによって、研究成果の数が増えてきたが、今ではその蓄積がなくなり、開館以降の研究の蓄積が十分でないために、結果として公開が少なくなってきているのが、はっきりしてきた。改めて学芸員の通常業務をしながら研究し発表していくサイクルをきちんと作っていくことが本格的に求められている段階になっている。 学芸ゼミをしたり、企画展示業務が研究発表につながっていくような取組やその他の学芸員業務に専念できる時間的確保の体制が進み作られてきたのはわかるが、まだ本格的にできていないので、より一層環境整備を進めるとともに、実際に学芸員自身が本来業務と研究をつなげていく努力をしていく必要がある。 多様な人々を含んだ参加型調査や資料の登録と公開など、学芸員の仕事の環境整備と併せて、必要な学芸業務を進めていく必要がある。 以上のことより3とした。 | <ul style="list-style-type: none"> 研究活動については、ようやく改善の兆しが見える。学芸ゼミでは目標の12件を達成でき、参加型調査でも目標(60人)や昨年度(89人)を上回る参加者(123人)を得たことは評価できる。 一方で、県民等への成果公開の環境であるデータベースの新規登録が57件(昨年度513件)に留まったことは、アクセス数が目標に達しなかったこと(目標5,000回、実績4,347回)と合わせて、改善が求められる。 以上のことより、3と評価した。 | 12 学芸員による研究活動を推進するために、定期的な発表機会を設けます | 4 | 学芸ゼミによる発表件数 目標値:12件 実績値:12件 | 外部への成果公表件数(論文・学会発表など手法や形式は自由) 目標値:3件 <u>※目標値の改善できず</u> 実績値:14件 | ・月1回の定期的な実施ができ、目標を達成したので4とした。 ・成果公表の目標値は大きく上回っているが、発表を行っている学芸員に偏りがあるので、全員が公表できるように支援していく。 | ・目標を達成しており4と評価した。 ・研究費を獲得するため、速やかに科学研究費が獲得できる研究機関登録が望まれる。 |
| | | | | | | 13 多様な主体が研究に参画するために、参加型調査を行います | 4 | 調査への参加者数 目標値:60人 実績値:123人 | 参加者の属性(年齢・居住地)の多様性 年齢は2才～80代と幅広いが20代はならず、県内各地からの参加者があった | ・目標を達成したので4とした。 ・ミュージアムパートナーとの調査以外にも、東紀州で移動展示に関連した調査を行うことができた。遠方の地域からの参加については、継続して考慮していく必要がある。 ・大学生への働きかけることにより20代の参加を促進していく。 | ・目標を達成しており4と評価した。 |
| | | | | | | 14 資料の活用を促進するために、収集資料データベースの充実を図ります。 | 2 | 収集資料データベースの閲覧回数 目標値:5,000回 実績値:4,347回 | 資料閲覧数 目標値:1,200点 実績値:1,297点 | <ul style="list-style-type: none"> 結果の目標の8割を達成したので2とした。 収集資料データベースへたどり着くようにHPのタブ表示の変更など工夫・検討をしていく。 館蔵資料を利用した展示等により、資料が閲覧できる部屋であることを外部へ発信することで、利用促進を図る。 | ・目標の9割で、目標を達成していないので2と評価した。 ・データベースの新規公開登録が57件と前年度の1割であったことは、HPからの閲覧利用のしやすさと合わせて改善が求められる。 |
| MieMuが利用者にとって知的好奇心を心地よく刺激する場となるように、学習支援機能の向上に努めます(学習支援) | 4 | アンケートの自由記述から、MieMuを一言で「学習・学びの場」であると回答した割合 目標値:10% 実績値:12% | | <ul style="list-style-type: none"> 目標を達成したので4とした。 秋の「武四郎展」が16%と最も高く、過去2年のデータでも秋の割合が高い傾向(H29発掘14%、H28忍者13%)にある。また、3月に実施した「博物館の舞台ウラ」も15%と高い数値を示している。 夏の「おもちゃ展」は集客に重点を置いた展示のためか、10%とそれほど高くない(H29のもの9%、H28大変動の地11%)。 基本展示は9%と最も低く、過去の12～13%と比べても低い。 | <ul style="list-style-type: none"> 目標を達成しており4と評価した。 | 15 利用者の身近な疑問に答えるために、レファレンス業務を行います | 4 | 質問対応件数 ※主に個人 目標値:120→300件 実績値:384件 | 疑問が解決した件数 目標値:100→250件 実績値:298件 | <ul style="list-style-type: none"> 目標を達成したので4とした。 ホームページ上に「よくある質問Q&Aコーナー」を掲載してはどうか | <ul style="list-style-type: none"> 目標を達成しており4と評価した。 学習支援とともに県民サービスの面でも評価できる。 |
| | | | | | | 16 学校利用を促進するために、学校や教員を対象とした学習支援プログラムを行います | 2 | 利用学校数 ※アウトリーチも含む 目標値:230校 実績値:200校 | 利用した教員の満足度 目標値:90% 実績値:98% (「満足」「やや満足」で98%) | <ul style="list-style-type: none"> 結果の目標の8割を達成したので2とした。 市町で実施されている校長会・園長会に出向き、ワークシートや遠足での利用方法、くらしの道具講座などについてPRを行った。 ワークシートの利用校数が少なく、さらなる利用促進を図る必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 目標の9割で、目標を達成していないので2と評価した。 児童生徒や学校数が減り、バス代が高騰するなど減少要因を分析する必要がある。 |
| 経営資源を効果的に配分するために、評価制度を活用して事業を選択します(経営) | 3 | 各事業のコスト・パフォーマンスの改善(定性) (副館長レビュー) | | <ul style="list-style-type: none"> 効率的な館運営を行うため、開館時間、レファレンスカウンターのあり方、展示会の開催本数について見直しを行った。 評価制度に基づく進捗管理を定期的実施したが、改善の動きが弱い取組があった。 以上のことから3とした。 | <ul style="list-style-type: none"> 評価制度を活用した経営資源の効果的配分(業務改善)について、時間外勤務時間がかかり減り安定化してきたことや、過去に何年も指摘された調査・研究業務の時間を確保することが、少しずつではあるができていたことは、経営資源の適正な配分が進みつつある。 以上のことより、3と評価した。 | 17 事業を日常的に確認し改善するために、定期的に進捗管理を行います | 3 ↓ 4 | 確認によって判明した課題の件数 10件 | 事業の達成度合い 目標値:60% 実績値:75% | <ul style="list-style-type: none"> 四半期ごとに進捗管理(3回)を行い、進捗状況を全体会議で共有することができた。 課題を明らかにすることができ、改善策や取組方針を協議することができたが、改善がわずしか進んでいない取組が一部みられたことから3とした。 | <ul style="list-style-type: none"> 進捗管理が四半期ごとにはできたので4と評価した。 |

【達成度】(※4段階評価:1.達成できていない(20点以下)、2.どちらかというと達成できていない(21～49点)、3.どちらかというと達成できた(51～79点)、4.達成できた(80点以上)、×.評価できず)

- 戦略外の評価項目
- 評価士による評価制度に対するレポート
- 用語
- ・戦略目標:計画期間中、重点的に目的を持って取り組むこと
- ・戦術:戦略目標達成のために、具体的に取り組むこと
- 評価体制
- 内部評価:内部評価委員会(小川・瀧川・星野・北村・中村)
- 外部評価:博物館協議会評価部会(高井・齋藤・山下・亀山・吉岡)
- 評価結果を報告、意見聴取→博物館協議会

○マネジメントのしくみ



| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 |
|--------|----------------------------------|----------------------|----------------------|------------|
| 評価の階層 | ①自己点検評価 | ②内部評価 | ③外部評価 | ④博物館協議会へ報告 |
| 評価者 | 館担当課・者 | 館内部評価委員会 | 博物館協議会評価部会 | 博物館協議会 |
| 評価作業内容 | ・指標データ整理 ・評価結果(価値判断) ・改善視点 | ・評価結果(価値判断) ・改善視点 | ・評価結果(価値判断) ・改善視点 | ・改善視点 |